

29年7月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 7月1日～ 29年7月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		29/7月	8月	9月
伐採動向	スギ	△ 41.7	△ 16.7	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 25.0	25.0	50.0
出荷・販売動向	スギ	△ 25.0	△ 16.7	0.0
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	25.0
手持立木在庫動向	スギ	△ 12.5	37.5	12.5
	ヒノキ	0.0	16.7	16.7
	カラマツ	△ 12.5	0.0	0.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0

・素材生産の伐採動向は、スギは7月、8月の減少から9月は横ばいに。ヒノキ及びカラマツとも7月の横ばいから8月、9月は減少に。エゾ・トドは7月の減少から8月、9月は増加に。

・出荷・販売動向はスギは7月、8月の減少から9月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続の減少。カラマツは7月の横ばいから8月、9月は減少に。エゾ・トドは7月、8月の横ばいから9月は増加に。

・手持立木在庫の動向は、スギは7月の減少から8月、9月は増加に。ヒノキは7月の横ばいから8月、9月は増加に。カラマツは7月の減少から8月、9月は横ばいに。エゾ・トドは3カ月連続横ばい推移。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林の素材生産請負事業でカラマツの間伐を実施している。現場の条件も良く、立木の径も太いことから伐採動向はやや増加。翌月の8月からは夏休みを考慮し横ばいとなる見込み（北海道）。
- ・現在、国有林の請負事業を継続中（北海道）。
- ・スギ、カラマツの伐採は控え目（東北）。
- ・造林事業の下刈作業を実施しているので伐採は行っていない（東北）。
- ・スギの主伐を実施している（中国）。

(出材・販売動向)

- ・流通材が少ないので出材・販売動向はやや増となる。翌月の8月からは夏休みを考慮し横ばいとなる（北海道）。
- ・出材調整はしていない（北海道）。
- ・スギの販売は弱含み、カラマツは安定している（東北）。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ち立木在庫が少なくなっているため、国有林の立木公売でトドマツを購入する予定（北海道）。
- ・請負事業を実施中なので、手持ち立木在庫に変動はない（北海道）。
- ・スギ、カラマツとも購入を控えてる（東北）。
- ・手持ちの立木在庫は持っていない（東海）。